

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100372		
法人名	株式会社ティエムコーポレイション		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	群馬県安中市宿1-9-17		
自己評価作成日	平成30年9月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・病院との連携が出来ており、安心して健康管理に努めている。 ・終末期においても安心して最期を迎えられる様、支援している。 ・昼夜トイレ誘導して気持ちよく過ごせる様、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>複数の往診医による看取り体制が確立し、家族の希望に沿った終の棲家としての支援が実践されている。看取り後は、職員のストレス軽減を図る目的で、情報の共有や家族と話し合う機会を持つなど、グリーフケアが行われている。災害対策では、火災のほかに、特に、水害を想定した避難訓練を自主設定し、職員3台の車に利用者が分乗して、指定避難場所まで行く訓練を企画するなか、事前に利用者には話さず訓練を開始することで、緊急事態での利用者の反応を観察し、今後の課題と反省点の把握に努めている。言葉の拘束においては、「7つの禁句(だめだね・もうわすれたの等)」「7つの良い言葉(ありがとう・たすかった等)」を具体的に挙げて事務室の扉に掲示して、業務中の自らの戒めとしている。利用者の過度の刺激を防ぐうえからも、ホールの吹き抜けの窓からの光に配慮して、状況により窓にフィルムを貼ったり、テレビの音を調整したりと、共有空間の環境づくりに取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念の振り返り、確認をし、共有して実践しています。	「尊厳・安全・安心・自立・自由」を理念とし、玄関とホール、事務室内に掲示している。人を大切にすることをテーマとして、理念に基づいたケアに努めている。	理念にある言葉の意味などを職員間で話し合う機会を持ち、実践に向けての具体的な理念の共有を図ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、保育園の行事、芋掘り等、地域の方が声掛けして下さり交流している。 月に1度合唱にも来所して頂いています。	老人会代表や区長等と連絡をとりあい、地域のお祭りに参加したり、保育園の行事に参加したりして、地域との交流を図っている。隣にある農産物店に出かけたり、散歩の際には近隣の人に挨拶をしたりするなど、顔見知りになることでの地域との一体感を醸成している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所時には利用者の方と交流してもらうなど、施設を開放的にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の定期会議を開き報告・承認・意見・アドバイスを頂き、職員にも報告しサービス向上に活かすようにしています。	運営推進会議は、年6回開催のうち、3回は小規模多機能型居宅介護事業所と合同開催している。家族には封書で開催案内を出し、出欠を取っているが、欠席でも事前に電話で意見等を話してくれる家族もある。議事録は作成し、施設内で閲覧できるようにしている。	会議で話し合われた意見等を活かし、サービス向上に繋がる具体的な取り組みを期待したい。また、議事録を送付することで、参加メンバーで情報の共有化を図れることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に質問・意見・指導を頂き、何かあれば報告するよう取り組んでいます。運営推進会議にも出席して頂いています。	市へは事故の相談・報告や、定例的な施設の状況等の報告を行っている。市の研修に、職員を派遣している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は理解しており、やむを得ない理由においては手続きを取り実施し、極力解除できる方向で目標に取り組んでいます。 2カ月ごとに適正化の現状報告をしています。	現在、拘束を必要とする利用者はいないが、個々の利用者の思いをどう取り取るかなど、ミーティングや全体会議で、「拘束しないケア」について話し合われている。「7つの禁句・7つのいい言葉」を事務室の出入り口に掲示し、業務の気づきに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を強く共有し、身体的観察も怠らず、言動的にも虐待の見逃しがないように注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け活用できるよう、職員とも学ぶ機会を持ち、理解に努め成年後見制度を利用する家族に情報を提供して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者、介護支援専門員が中心となり、家族の理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議には家族が出席し意見を発表する機会とし、また、面会時には意見や要望等がないか必ず聞いている。	家族が支払いや面会で事業所を訪れた際に話を聞き、利用者の状況等の報告を行っている。面会頻度が少ない利用者の家族には、社長やケアマネージャーが状況報告のために電話をして、利用者との関係継続に努めている。	運営に関する家族からの意見が聴取できる機会づくりを、事業者側からどう作れるか、検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体会議など行い、職員の意見を聞く機会を設け、反映している。	毎日の引継ぎ・モニタリング会議などのミーティングの機会や、月に1回の全体会議で、意見交換する機会がある。他に、スタッフ個々が、管理者や社長に伝える機会がある。トイレドアの内側のプライバシー保護用のカーテンの設置や、トイレの照明スイッチの位置変更などの実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件について十分把握し、職員が生き生きと勤務出来る様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修機会を確保するため、シフト面、金銭面で、出来るだけ支援し、職員全員の実力アップになるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会議の場などで情報交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が本人からの話に十分に傾聴し信頼して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともお会いして十分に話をしてもらうように耳を傾け理解、納得できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めて家族と話し合い、支援できる力を考え、サービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事(洗濯たたみ、新聞折り)をして頂き、寄り添う姿勢を保つように心掛け、昔の話や習慣等も教えて頂いて、なじみの関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の話に耳を傾けると同時に本人と家族の関係を大切にしたい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や交流関係等の情報を共有し途切れない様、支援に努めている。	利用者は、家族の協力を得て、美容院などの馴染みの場所に出かけている。利用者には日々の会話のなかで、昔の話に繋がるよう働きかけを心掛けている。昔を思い出してもらい、記憶が蘇ったその時の気持ちに寄り添うケアに、取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員は状況判断ができ対応を考え孤立状態にならないよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	途中解約の例がないが必要に応じて支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴して把握に努めている。	職員は日々の申し送りで情報を共有し、声かけの工夫やサインを見逃さない支援に努めている。利用者が意思表示しやすい機会を多くするような関わり方を心がけ、自由に意思表示しやすい環境を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員の調査と家族からの情報等から生活歴の把握に努め、職員で共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定をしているので心身状態を把握でき、毎日の気づきを元に情報伝達を忘れず、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを怠らず、連携を活かした介護計画を作成している。	3ヶ月ごとに利用者の担当スタッフを変えて、毎月モニタリングを行い、偏った見方を防いでいる。モニタリングを基に、ケアマネージャーが短期目標見直しに役立っている。日々の記録のファイルには介護計画がとじてあり、記録を書く際に計画を確認できる工夫がなされている。	各種の記録が、介護計画に基づき一貫した記録となるような検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をとりミーティングやカンファレンス等、職員間で情報を共有しながら実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況を踏まえてサービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は難しいですが、地域住民として町内外の行事に参加し、交流を深め楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医と連携をとり、定期往診、受診の支援をしている。	複数の協力医による月2回の往診があり、事業所の看護師が医師への状況等を報告している。他科等への通院は、原則家族で行われ、医師への利用者の情報は、口頭で家族に伝えられている。入院時は、サマリー(情報を集約したもの)を作成して伝達している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、24時間連絡、相談できている。 病院からは週一度訪問看護師が来所している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換、相談、主治医との連携等、良好に出来ており協力、指導もして頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で始まり状況に応じてその都度説明と方針の確認をして支援している。	看取りは、入居時に説明し、重度化がすすんだ時点で、家族の意向を確認している。終末期には家族が泊まれる体制もある。看取り後は、家族のグリーフケア(深い悲しみに寄り添う)を実施し、対応についての振り返りや、対応したスタッフのストレス解消のための、情報共有もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行なえていませんが必要時には看護師を中心にレクチャーをもらっています。又、研修に参加して、実践に役立つように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、避難訓練もしています。 消防署立会いの訓練では地域の方も参加して下さいます。	年2回避難訓練を実施し、1回は消防署立ち合いで、地域の方も参加して実施している。また、自主的に水害を想定した避難訓練を開催し、利用者の反応を観察して対応を検討、職員の車を利用しての避難など、実践に向けての訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には声かけや言葉に注意して対応している。	呼称は原則として「さん」だが、親近感を持ってもらうために「○○ちゃん」と言っている利用者もあり、家族との相談等による。各種の声かけは大声でなく、時には筆談で対応することもある。トイレの見守り時に入浴する際は、ドアの内側にカーテンを設置して、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をくみ取り、自己決定出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先のペースで運び、強制することなく、その人らしい生活が出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの髪カットの支援を行い、洋服も選ぶよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量により、準備出来る人には職員と一緒に手伝ってもらい、一緒に食事をしたり、挨拶、下膳、片付けが出来る方にしてもらう。	献立は、食材を取り寄せている業者のものを使用している。誕生日会や敬老会などの行事の時や、メニューにはない献立の希望が利用者からあった時には、業者の配達をキャンセルして職員が手作りしている。調理専門の職員を採用し、職員がケアに専念できるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食記録をとり、チェックし一人一人の状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導介助して一人一人の口腔ケアをし、夜は義歯をあずかり消毒している。 (舌のチェックもしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄チェック表により各々のパターンを活かした支援を行っている。 オムツ使用の方は入浴前にはトイレ誘導(2人介助)し、トイレでの排泄が出来る様、支援を行っている。	排泄をトイレで行う機会をもち、利用者の機能や能力の維持に努めている。おむつを使用している利用者も入浴前にはトイレに誘導し、排泄をトイレで行う機会をつくり、自立排泄の実現とおむつはずしに向けての支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に配慮したり、午前中は運動を取り入れたり、個々に応じた方法で予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否する方には希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめる様、個々に沿った支援をしている。	10月から6月は週に2回の入浴、7月から9月は週3回の入浴ができるよう取り組んでいる。脱衣所の出入りの際に、中がホールから見えないよう廊下にカーテンを取り付けるなど、羞恥心への配慮が行われている。入浴中は職員と一緒に、会話や歌を楽しむ機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣やその時の心身の状態により安心して休息したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人が使用している薬を把握、理解すると共に変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中からも一人一人の嗜好品、楽しみ事、等の情報収集をし、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力が得られる外出は希望通り支援している。 普段はドライブ、日光浴等の外出支援をしている。	玄関先のベンチでお茶を飲むなどして、日光浴の機会を持っている。事業所周辺での定期的な散歩は、重度化にともない実施が難しくなっている。お花見・紅葉狩り・コスモス見学などは、年間のドライブ計画に入れて実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は家族承諾のもと小遣い程度の金額を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く都希望される方はいないが、本人希望で電話したり、職員が判断してかけてあげたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔を保ち、くつろげる場になるよう季節感を取り入れながら空間を作っている。	共用部分には、行事等の際の写真や、季節の飾り付けがなされている。窓が多い構造になっているので、特に、西日の入る窓にはフィルムを貼ったりしての光量の調節や、テレビの音量・会話の音量に配慮して、居心地よく過ごせる空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子は方々に配置して、食事以外は好きな所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッド、カーテン以外は自由に持ち込んで頂き、一人一人の居室となるように工夫をしている。	ベッドとカーテンは、事業所で設置している。部屋の家具やテーブルは、家からの馴染みのものが置かれ、部屋の壁には家族と一緒に写真が飾られ、導線が確保された安全なスペースがつくられ、居心地のいい居室づくりが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るかぎり自立を妨げないように車イス対応できる広さやベッド、手すり等配置し、安全に配慮している。		